

平成30年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞
主催者賞受賞

ITを活用した災害に強い町づくり

茨城県常総市 根新田町内会

根新田町内会事務局長 須賀 英雄

本格的な防災活動の起点

2015年9月の「関東・東北豪雨災害」地区の上流約4キロメートル地点で鬼怒川の堤防が決壊し、地区のほとんどが床上浸水の甚大な被害を受けた。コミュニティ活動の拠点となっていた公民館も床上浸水1メートルの被害を受け、自然の猛威の前に為す術も無い人間の無力さに、ただ茫然とするだけの日々が続いた。水も引き、各地から災害ボランティアの皆さんが続々と支援に入り、泥だらけになりながら一生懸命お手伝いしてくださいる姿や温かい言葉に大いに励まされ、町民一丸となった復旧活動と「災害に備えた町づくり」が始まった。

ITを町内会の活動へ

「関東・東北豪雨災害」の前年8月、根新田町内会（加藤岩雄自治区長）の活動を内外に広く公開し、地域活性化の情報共有を願って、地域コミュニティサイト「わがまちねしんでん」の運用を開始。当年10月には緊急時に役立つ情報伝達のツールとして携帯電話のショートメールを使った全町民への「SMS（ショートメールサービス）一斉送信システム」の運用も開始した。

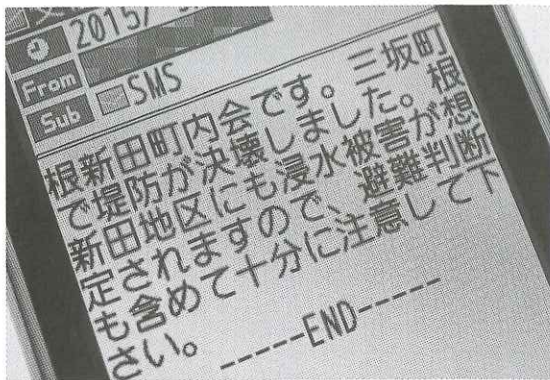
ITを防災活動へ活用

2015年9月10日に発生した「関東・

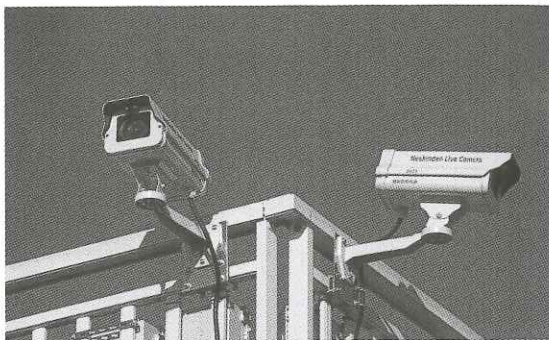


根新田自主防災組織決起大会





SMS 一斉送信システム



ベランダに設置した防災用ライブカメラ



「黄色いタオル」を掲げてから隣近所の安否確認



安否確認のプロ・女性防災委員

東北豪雨災害」で、各避難所や親類宅に分散した町民と町内会を結ぶ情報共有の手段として「SMS一斉送信システム」が驚異的な効果を発揮した。決壊前の鬼怒川の水位情報の発信から始まり、決壊時の避難喚起、決壊後の地区内の浸水状況や帰宅のための道路情報、支援物資の入荷情報、災害ボランティアさんの手配情報など、合わせて50通の緊急情報を浸水した地区内から町民の携帯電話に発信し続けた。

従来から運用していたシステムを災害に使用したまでのことだったが、9月28日NHK総合テレビ「シブ5時」でこの話題が地区内から生中継され、大きく報道された。これを皮切りに「逃げ遅れを防いだ町内会の先進的な取り組み」として報道各社が連日のように取り上げ、共同通信社の取材もあつて全国的に広報されるようになった。

災害犠牲者ゼロを目指して

水害の怖さ、自然災害の猛威に立ち向かうべき、私たちは「災害犠牲者ゼロを目指した」自主防災組織の設立に邁進することとなった。災害に備えるにはどうしたらよいか、実効的な防災活動、減災活動は何かと考えた時、私たちの地域では、水害と震災各々について備える必要があった。

水害の場合は、台風の発生から河川の水位上昇、氾濫等と発災までのプロセスに予想がつくので、まずは台風が接近してきた時の基本的なチェックリストの作成に取り組み。時期を同じくして国土交通省下館河川事務所、常総市から「マイ・タイムライン」のモデルを作ってみませんか」という提案があり、これぞ私たちが望んでいたものばかり。水害時の避難行動計画マイ・タイムライン”を作る取り組みを開始し、2017年2月に完成

した。町内会のレベルでは全国初の取り組みとのことで、これで台風発生から時系列的に自分は何をするのかが分かり、計画的な行動ができるようになった。

並行して、鬼怒川に注ぐ地区内を流れる千代田堀川を監視する防災カメラの設置を検討した。電気やITに詳しい人的資源を活用して、2017年1月に事務局宅のベランダにカメラを設置し、その映像を町内会のホームページに自動転送、誰でも見られるように公開した。この映像を監視することによって地区内に避難勧告が出る前に、住民自ら避難の判断ができることや、避難所や親戚宅にいても地区内への浸水の予測がつき、被災状況の把握や地区外からの帰宅の判断に大いに役立つことになった。

- 「SMS」「マイ・タイムライン」「ホームページ」「防災カメラ」の連携により、
1. 大型台風が関東地方に接近、「SMS一斉送信システム」で注意喚起
 2. 「マイ・タイムライン」にしたがって各々が計画的に行動
 3. 「ホームページ」で、防災カメラの映像を確認し、避難行動に役立て
 4. 「SMS一斉送信システム」で情報共有

という水害に備えた「災害犠牲者ゼロをめざす」プロセスが完成した。

反面、大地震の場合は突発的に発生するので、事前の対策は困難を極める。地震が発生した時に自身や家族の安全を確保するのは当然だが、「隣近所の安全を迅速に確認して救助する」といった行動を、その時町内にいる人たちが確実に実行できれば、自主防災活動の第一の目的は達成されたと言っても過言ではない。

そこで、在宅家族の安全が確保できたら「無事ですタオル」を玄関先に掲げて、家族の安全を告知してから隣近所の安全確認をする。要救助者がいれば「SMS一斉送信システム」を使って「〇〇宅で救助要請、町内にいる方は至急救援のこと」という内容のメールを町民の携帯電話に一斉に発信することで、安否確認から救助までを効率的に迅速に実施することが可能となった。

2018年6月17日には「無事ですタオル大作戦」と称して実際に訓練も行った。その模様は当日のNHK首都圏ニュース845で放送されるとともに、新聞各社が訓練の予告や実施の様相を報道した。このような防災活動を広く公開することによって各自治会の防災力アップに

少しでも貢献できればと願ってやまない。いかなれば各自主防災組織間で「いとこ取り」をして、ともに防災力向上につなげられればと強く思っている。

「自主防災活動を強力に推進しよう」と本年1月には5人の防災士が誕生し、さらに2名が資格取得中である。また「きめ細やかな女性の特性を自主防災に生かす」ことを基本に、各班から選出された12人の女性防災委員が組織の中核を担っている。

以上のように、防災活動に積極的に取り組んできてはいるものの行政への正式な登録がなかったこともあって、本年6月10日「自主防災組織決起大会」を開催し「根新田自主防災基本計画」の基に、住民一人一人が決意を新たにしたい。

古き時代に言われてきた「向こう三軒両隣」の精神。都会ではすっかり影を潜め、地方でも世代の交代とともに希薄になりつつあるなかで、未曾有の災害を経験した私たちは失われたこと以上に地域の助け合いの大切さを改めて心に刻んだ。自主防災の根底にょどみなく流れる共助の精神、地域コミュニティをしっかりと後世につないでいくことが我々の責務と強く感じている。